

(別添3)

【精華町】
校務DX計画

1 趣旨

精華町教育委員会では、GIGAスクール構想に基づき、令和2年度から全ての小中学校で児童生徒及び教職員に1人1台端末と校舎の無線ネットワーク環境の構築、普通教室等への大型提示装置、個別学習等支援サービス業務などのICT環境の整備を進めてきました。しかしながら、教育現場では業務の複雑化や負担増加といった課題が依然として存在しており、効率的な校務運営が求められています。

これらの課題を解決するため、本市町村では教職員の働き方改革の一環として、校務のデジタルトランスフォーメーション(DX)を推進し、業務の効率化や負担軽減に向けた具体的な取り組みを進めることとします。

2 本町における課題等について

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果(文部科学省 令和5年11月実施)を踏まえ、精華町における次の課題を明確にしました。これらの課題解決に向けて、各学校と連携を強化しながら、校務DXの推進を図る必要があります。

(1) GIGA環境・汎用クラウドツールの一層の活用

精華町では、全ての教職員には、マイクロソフトアカウント及びグーグルアカウントを付与し、情報供給や連絡等にクラウドサービスが活用できる環境にあります。

校務DX化チェックリストの結果によれば、「教職員が作成した教材等をクラウド上で共有する」といった取り組みは多くの学校で実施されています。しかし一方で、「教員と児童生徒間の連絡等のデジタル化」など、保護者や児童生徒を対象とした利用については、十分に進んでいない状況です。ただし、学校と保護者間の連絡については、保護者学校間連絡システムの導入を進めており、更なる利便性の向上に努めています。

(2) 今後の校務支援システムの在り方検討

次世代の校務システムについては、既存システムの運用方法との親和性を考えながら、近隣市町村との接続性なども考慮して検討していきます。

(3) 教育情報セキュリティポリシーの必要性

平成29年にセキュリティに関する指針を策定して以来、教育現場の現状に即した教育情報セキュリティポリシーの改訂が行われていない状況にあります。

今後は、国の方向性や現状を的確に把握し、クラウド上のデータやサービスの活用を前提とした新たな教育情報セキュリティポリシーの策定が求められま

す。また、学校では児童生徒に関する多様な情報が日常的に活用されていることを踏まえ、児童生徒の存在や情報の多様性・多目的性を十分考慮した情報セキュリティ対策を講じることが重要であるため、まずは教育現場の実情に合った現実的で実効性のある教育情報セキュリティポリシーの整備を進める必要があります。

3 校務DXに向けた取組

上記の課題を踏まえ、校務DXに向けた取り組みを以下のとおり進めます。

(1) 業務を支援するツールを活用した効率化の推進

教職員の業務負担を早急に軽減するため、まずは既存の業務支援システムの活用方法を研究・実践します。また、Microsoft Teamsを活用し、児童生徒とのリアルタイムでの連絡や学習状況の把握・評価の充実を図るとともに、教職員間の情報共有を促進し、校務の効率化をさらに推進していきます。

(2) 校務系・学習系ネットワークの統合等

校務系ネットワークの学習系ネットワークへの統合を想定し、データ連携やセキュリティ対策について調査研究を進めます。また、既存のサーバや校務端末の更新時期を考慮し、ネットワーク統合後の組織体制も視野に入れた取り組みを進めていきます。

(3) 教育情報セキュリティポリシーの策定

クラウド活用を前提に、それに適したセキュリティレベルを確保しながら、データ利活用や個別最適な学びなど、新たな時代にふさわしい教育DXの基盤を構築するため、教育現場の現状を踏まえ、「教育情報セキュリティポリシー」を策定します。